水郷の生活景を編む

～ 1030m がつなぐ過去と未来の物語～

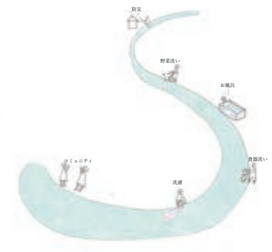
滋賀県伊庭町にある地域住民を支えてきた水路とこれから再び水を流そうとしている水路に断片的に街に点在する生活景を再編、つなぐことで 1030m の水系インフラをつくる。それは忘れ去られつつある伊庭の生活景と地域住民・観光客、豊かな環境・文化・生業を再構築するアクターとなり、未来を描く。



01 水系インフラが町のネットワークを形成していた町

敷地





滋賀県東近江市湖東平野に位置する伊庭町。
ここは、伊庭川から引かれた水路が町中を縫うように構成される水郷集落
水路が洗濯や食事などといった地域住民の生活を支えていたインフラであった

02 忘れ去られつつある滋賀の水系ネットワーク

問題


1980 年代　伊庭川の付け替え


水路の暗渠化


幅の縮小


町の遺構的なものに

自動車交通の普及や農業機械などの利用、さらに 1980 年代に行われた滋賀県営圃場整備事業の関連事業として伊庭川の付け替えが行われた。
これにより、伊庭の地域住民の生活を支えていた水系インフラは暗渠化・幅の縮小など現代になるにつれその姿を変えてきている。
幅が縮小された水路や暗渠化された水路はかつてのような水路の機能を失い、町の遺構的なものとなっている。

＜過去＞


水路で洗濯


水路で食器洗い


田舟に乗っておでかけ


水路で遊ぶ

03 水郷に残される生活景と地域住民よって再編された断片

発見 1

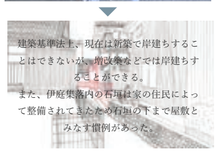
03-1 カワト




水路へ降りる石段・洗い場
田舟の舟着場、水汲み場にも利用

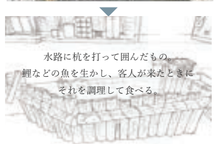
03-2 岸建ち




建築基準法上、現在は新築で岸建ちすることはできないが、増改築などでは岸建ちすることができる。
また、伊庭集落内の石垣は家の住民によって整備されてきたため石垣の下まで屋敷とみなす慣例があった。

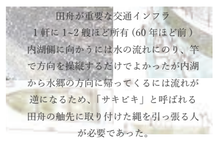
03-3 いけす




水路に杭を打って囲んだもの
鯉などの魚を生かし、客人が来たときにそれを調理して食べる。

03-4 田舟




田舟が重要な交通インフラ
1 軒に 1~2 艘ほど所有（60 年ほど前）
内湖側に向かうには水の流れにのり、竿で方向を操縦するだけでよかったが内湖から水郷の方向に帰ってくるには流れが逆になるため、「サキビキ」と呼ばれる田舟の舳先に取り付けた縄を引っ張る人が必要であった。

時代の変化に伴い、水郷の姿は変化を余儀なくされてきたが、場所によってはかつての伊庭での暮らしを彷彿とさせる生活の風景の断片が点在していた。それらをこの伊庭町独特の**生活景**と定義する。

04 地域住民の方々に対し行った、水路と日常生活に関するヒアリング

発見 2



リサーチまとめ

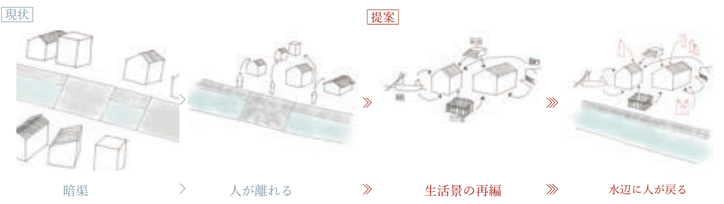
- 断片的に町に点在する生活景と住民によって再編されている生活景の存在
- 伊庭川が伊庭町にとって一番重要な川であり、伊庭川沿いに多くの生活景が残る
- 観光客や伊庭町に調査に訪れる人が多く、ガイドツアーがある
- 涸渇した水路にこれからもう一度水の流れを取り戻そうという話が出ている
- 水路の暗渠化、幅の縮小に関して消極的な地域住民
- 住民の生活インフラは道路や水道ではなく水路であった
- 昔は道路に面していなくてもカワ（水路）には面していた
- 現在、水路を使って何かをするというような生活行為は少なくなってきている



以上の 発見 1 発見 2 より
伊庭の街にとって一番重要なインフララインである伊庭川沿い
と
これからもう一度水の流れを取り戻そうとしている水路を計画敷地として選定

05 水辺のかつてとこれからをつなぎ水辺に人を呼び戻す

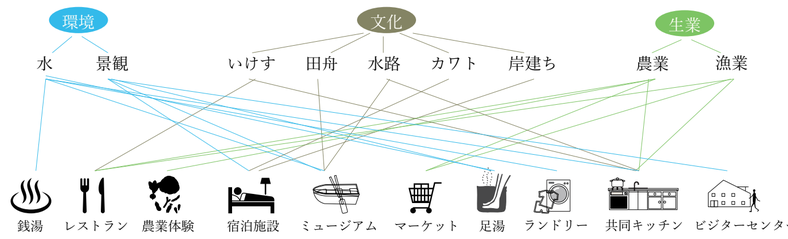
提案



これからも水路の縮小や暗渠化の進行でカワトや田舟、いけすや岸建ちといった水郷集落独特の生活景が壊され、伊庭町の都市化が進む恐れがある。また、**町中に点在していた生活景の断片は過去と未来をつなぐ手掛かりになる**のではないかと考えた。そこで住民たちが再編したり残してきた記憶（生活景）をこれから再び水を流そうとしている水路に再編することで、過去と未来をつなぐことができるのではないだろうか。

06 豊かな環境・文化・生業を活かした計画

プログラム



一番重要なインフララインだった伊庭川からこれから再び水を流そうとしている水路にかけて**かつてとこれからの伊庭の風景や生活景を作品**と見立て、**それらをめぐるミュージアム**と**伊庭の地域住民と観光客、豊かな環境、文化、生業を結ぶ拠点を計画**し、**伊庭でしかなしえない地域再生**を目指す。

07 生活景の読み替え・再編

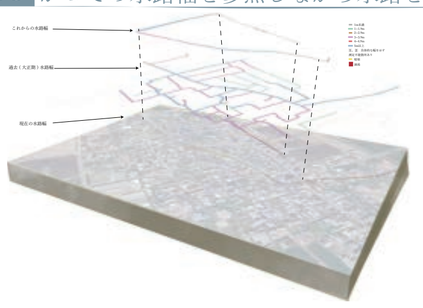
設計手法



生活景の読み替えを行い phase1~phase3 に再編させる。
岸建ちに関しては石垣部分以外のコンクリート、雑草で埋もれてしまった塀部分に岸建ちを行うことで**かつての重要だった石垣を守りながら新たに石垣以外にできた岸建ちでこれからの風景をつくる。**

08 かつての水路幅を参照しながら水路を復元、舟のミチをつくり水を通す

phase1、phase2



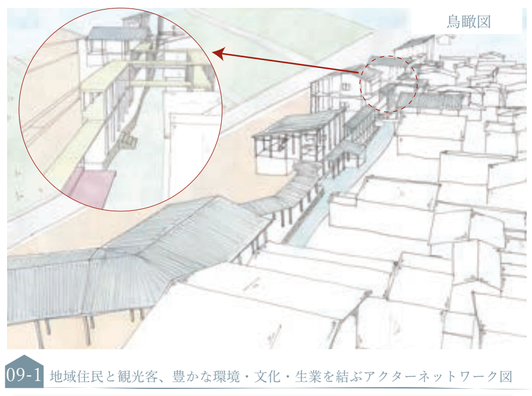
大正期（もっとも水路や舟が使われていた時期）の水路幅と現在の縮小・暗渠化してしまった水路幅、暗渠化している地点を地図上にプロットして、2 つの水路幅を参照しながら舟のミチである水路と陸路の幅を決定する。また、**伊庭川からこれから水を通そうとしている水路にかけて暗渠を開渠にすることで、1 本の 1030m のインフララインが再構築**される。

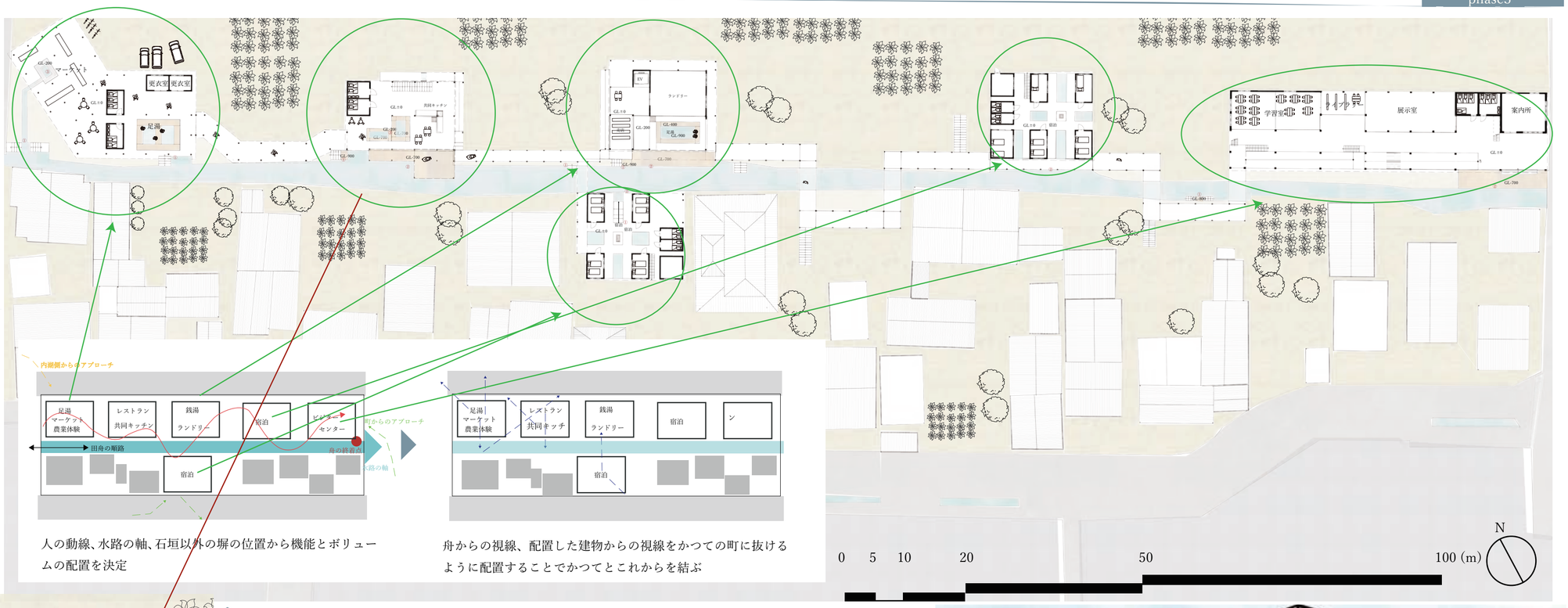

田舟に乗って、伊庭川沿い内堀を見る

陸路からの視点では味わえない（≒GL－200 ～ ±0）の視点や速度、生活景とのキョリ感で辿ることでかつての田舟からの視点で街を鑑賞する。

09 これから再び水を通そうとしている水路で伊庭の地域住民と観光客、豊かな環境・文化・生業を結び未来の伊庭の姿を描く

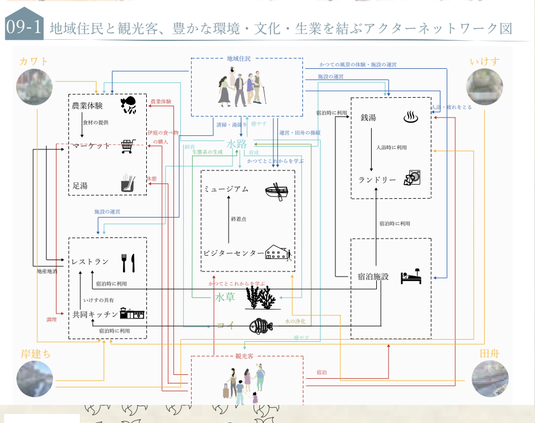
phase3


鳥瞰図

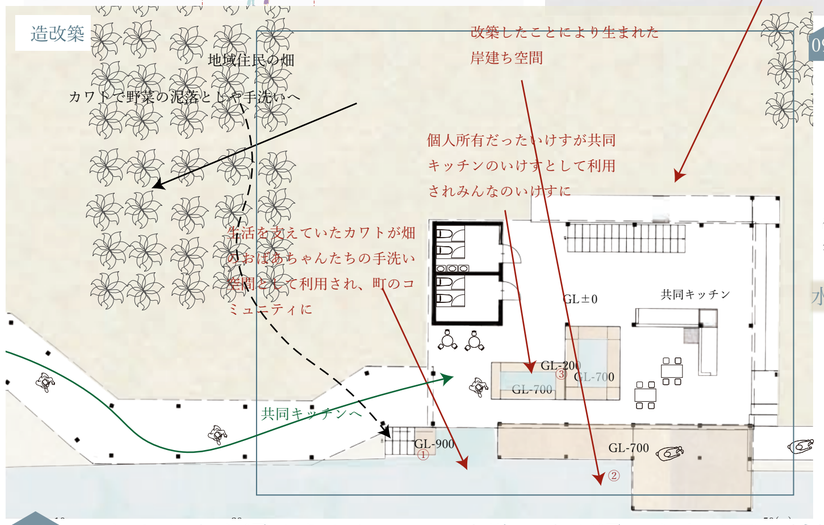


人の動線、水路の軸、石垣以外の塀の位置から機能とボリュームの配置を決定

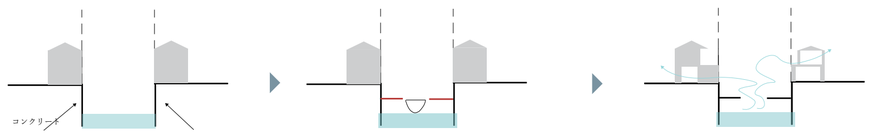
舟からの視線、配置した建物からの視線をかつての町に抜けるように配置することでかつてとこれからを結ぶ



09-1 地域住民と観光客、豊かな環境・文化・生業を結ぶアクターネットワーク図



09-2 豊かな水辺を活かした断面計画

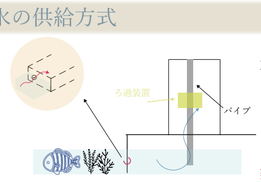


伊庭の生活景である岸建ちを用いて石垣以外の塀の位置からボリュームを配置

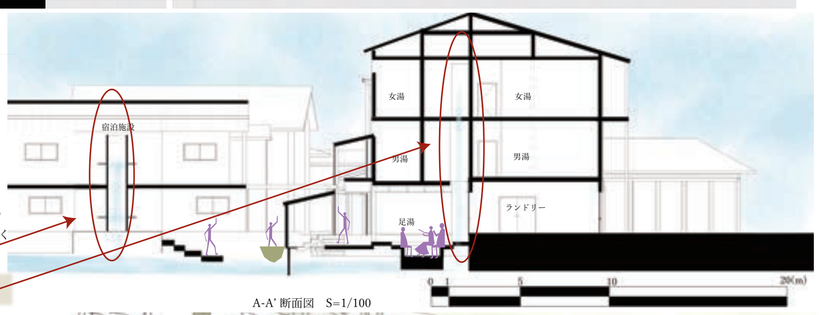
湯係りと呼ばれる役割の人がカットリ（水面の高さの調整）を行うため、水害の心配がなく GL-700≒田舟の高さと同じ高さまでスラブを設けることができる。

2 階部分をセットバックさせることにより建物と水路のキョリ（D/H）に強弱をつけ、水路からの風の抜けをつくる

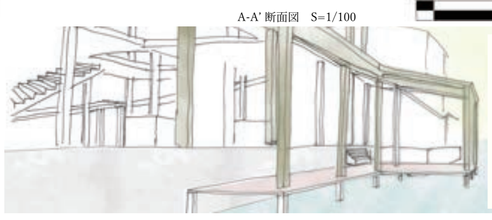
水の供給方式



石垣以外の塀の部分（コンクリート、埋め立て etc）に建築していることで塀部分に穴をあけて水を建物の下まで供給することができる。鯉や水草がそれぞれ水を浄化しながらそれぞれ穴をあけた部分から建物の下まで供給した水をパイプを用いてそれぞれ持ち上げ、ろ過装置でろ過しお風呂、洗面、食器洗いなどといったかつての生活インフラの行為をもう一度水路の水を用いて再構築させる。



A-A' 断面図　S=1/100



田舟からシェアキッチン・レストラン棟を見る。既存建物を増改築することで岸建ち部分と水面の新たなインターフェイスができる。

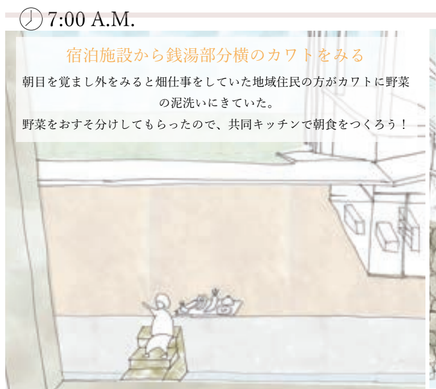
10 これから水を通そうとしている水路に水が通ったある日の地域住民と観光客の 1 日の様子

シーンパース

7:00 A.M.

宿泊施設から銭湯部分横のカワトをみる

朝目を覚まし外をみると畑仕事をしていた地域住民の方がカワトに野菜の泥洗いにきていた。
野菜をおすそ分けしてもらったので、共同キッチンで朝食をつくろう！



9:30 A.M.

水路から町を見る

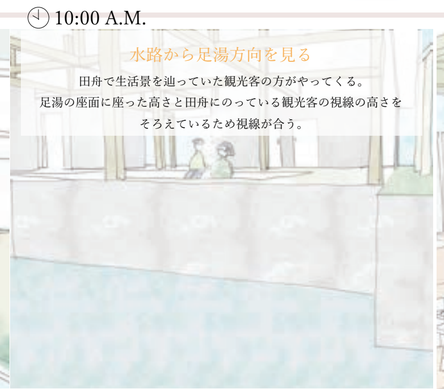
田舟に乗って町中を巡る。
田舟が町中を巡る姿は、かつての伊庭の姿を彷彿とさせ、舟の視点で新たな町の姿を楽しむ。



10:00 A.M.

水路から足湯方向を見る

田舟で生活景を辿っていた観光客の方がやってくる。
足湯の座面に座った高さと田舟にのっている観光客の視線の高さをそろえているため視線が合う。



12:00 P.M.

レストランを見る

お昼は観光客と地域住民の方でいっぱいになり、食材は主に伊庭で採れたもので調理する。



15:00 P.M.

足湯を見る

ビワイチをサイクリングしていた人たちが休憩がてらに足湯にやってきて、観光客同士、地域住民が足湯で語らう。

19:00 P.M.

銭湯を見る

新しく水が通った水路の水をポンプで引き揚げているため、かつてのように水路の水を用いて生活行為を行う。
観光客、地域住民が 1 日の疲れを癒しにやってきて、語り合う。

近畿大学大学院　090-5053-8532